



ETK0143051F

MJC-ACS 標準工法書

ご使用前に、この工法書を良くお読みの上、内容を理解してから、ご使用下さい。
お読みになった後も、この工法書は大切に保管してください。

▽ 安全上のご注意 ~安全にご使用いただくために必ずお守りください~

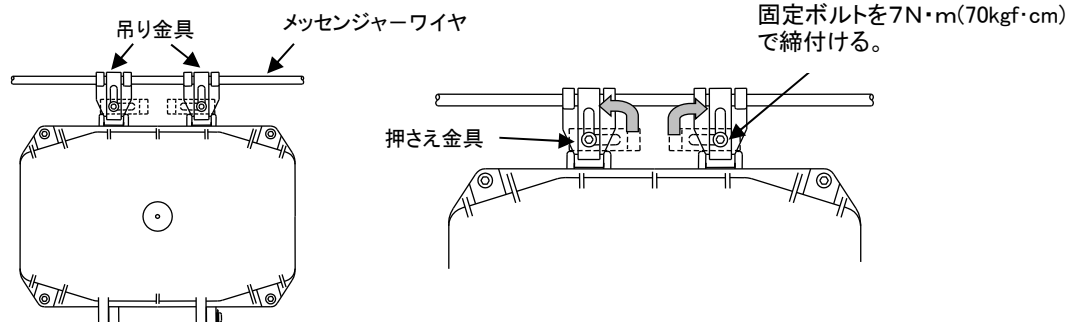
この工法書には、人体への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にご使用いただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次に示すとおりになっております。内容を良くご理解のうえ本文をお読みください。

本クロージャに関する安全上のご注意	
<p>警告</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本クロージャは、落下などの無いように、確実に固定して下さい。 架空での施工時には、部品及び使用工具が落下しないようにご留意ください。
<p>注意</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性および、物的損害の可能性が想定されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 刃物などのご使用時には十分に注意してください。 本クロージャの組立には、本製品以外の部品を使用しないでください。 締め付けトルクを規定した作業は、その規定を守って作業をしてください。水の侵入やケーブル及びクロージャの破損の原因となります。 塩害地域でのご使用の場合は、ステンレス鋼でも腐食する場合があります。 鉄道沿線、橋梁部、架空など振動が大きく心線移動が懸念される場所で一方向燃り型ケーブルを使用する場合、心線移動防止処理の実施を推奨致します。
<p>お願い</p> <p>右記の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の性能を発揮出来ない可能性及び、機能停止をまねく可能性が想定されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥剤が必要な場合は、別途ご用意ください(性能上、長期保管できないため)。また、乾燥剤は光ファイバ心線に圧迫を与えない位置にお入れください。 光ファイバ心線の配線に関しては、許容曲げ半径30mm以上をお守りください。 融着作業に関しては、ご使用の融着接続機の取扱説明書をご覧ください。 本クロージャの解体・再組立・導入ケーブルの追加などの作業を行う際は別途、部品の交換が必要とする場合がありますので、事前に弊社・営業担当までご相談ください。 設置後、長期間(1年以上)経過した後の、解体・再組立作業を行う際は、念のためグロメット(閉塞栓)・ガスケットをあらかじめ、別途ご用意いただくことをおすすめします。

1. クロージャ取り付け

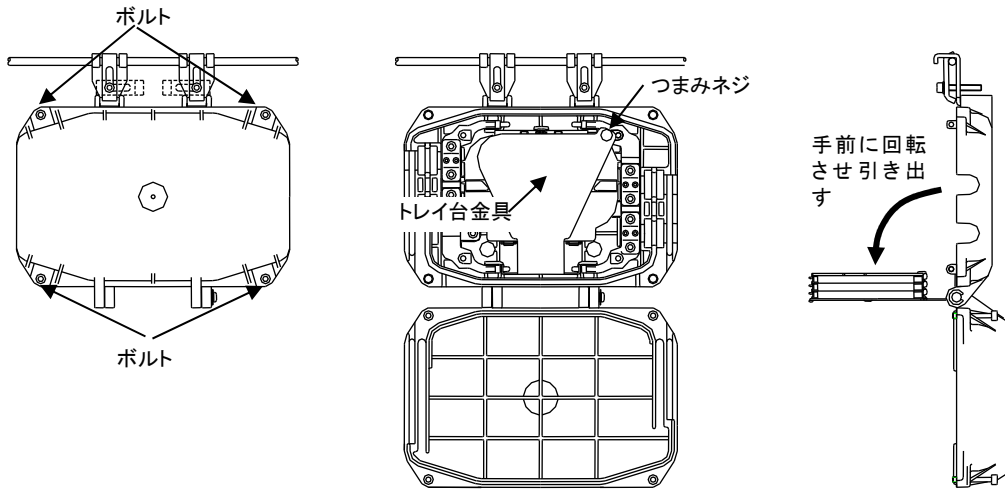
1.1 吊り線への固定

- (1) 吊り金具のボルトを緩め、メッセンジャーワイヤを吊り金具本体に引っ掛る。
- (2) 吊り金具の押さえ金具をメッセンジャーワイヤに引っ掛け、固定ボルトを7N・m(70kgf・cm)で締め付けて固定する。



1.2 蓋の開放及びトレイ台の引出し

- (1) 本体周囲のボルト4カ所を緩めて、蓋を開ける。
- (2) トレイ台金具のつまみネジを緩め、トレイ台金具を回転させ手前に引き出す。

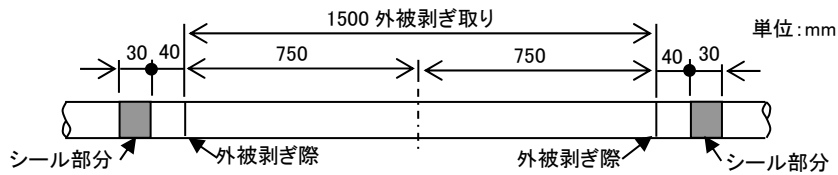


2. ケーブルの口出し処理

2.1 通過ケーブル

(1) 外被剥ぎ取り

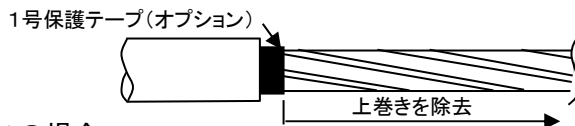
接続中心から両側 750mm(合計 1500mm)のケーブル外被を剥ぎ取る。



(2) 外被剥ぎ際の処理

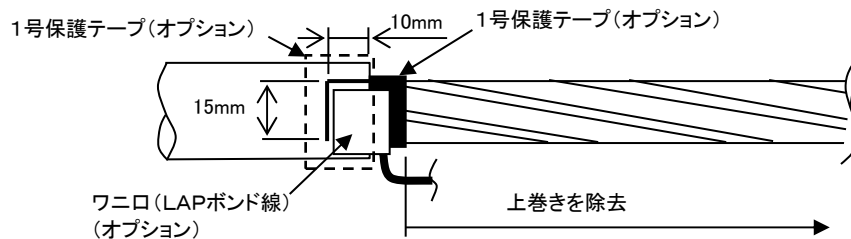
a) プレーンシース又はWBケーブルの場合

外被際に1号保護テープ(オプション)を巻き付け、その際より上巻きを取り除く。



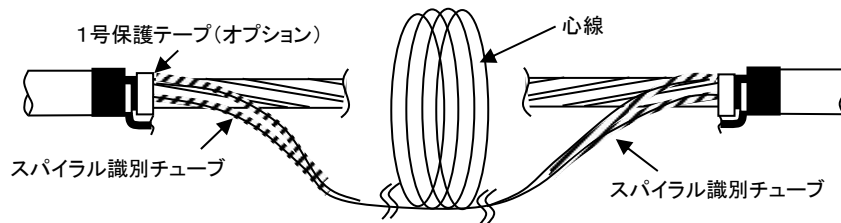
b) LAPシースの場合

- ① 外被際に1号保護テープ(オプション)を2回巻き付け、外被にLAPボンド線取付用の切れ込みを入れ切りおこし、LAPボンド線(オプション)のワニ口をペンチで挟む。
- ② 1号保護テープ(オプション)をワニ口の上に3回巻く。
- ③ 上巻きを1号保護テープ際より取り除く。



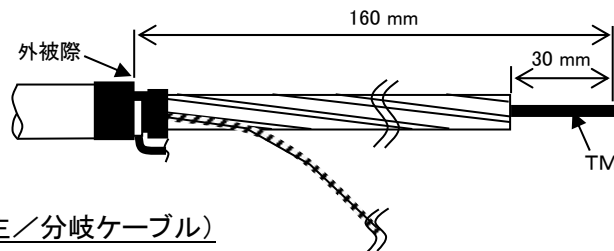
(3) スパイラル識別チューブの取付け

スパイラル識別チューブを長さ 350mm に切断して心線に取付ける、その上から1号保護テープ(オプション)を巻き、ばらけ防止する。



(4) スロットの切断及びテンションメンバ(以下TM)の口出し

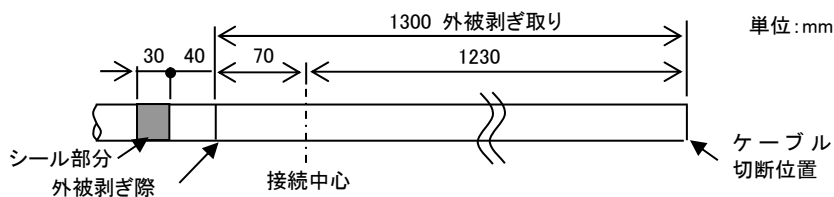
スロットを切断し下図の通り口出しする。



2. 2ケーブル端末(主/分岐ケーブル)

(1) 外被剥ぎ取り

下図の通り接続中心より 1230mm でケーブル切断し、1300mm 外被を剥ぎ取る。



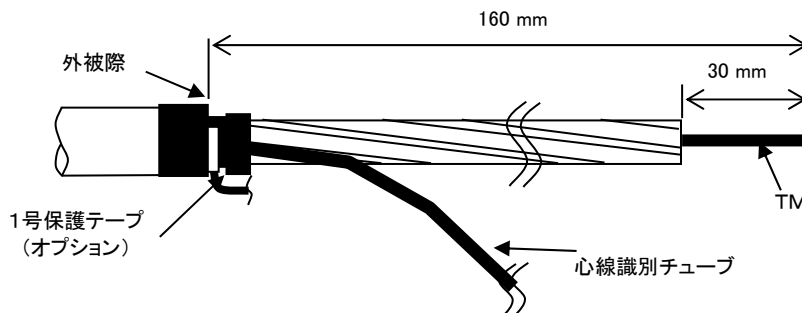
(2) 外被剥ぎ際の処理

工法書の「2. ケーブルの口出し処理」/ 2. 1 通過ケーブル / (2) 外被剥ぎ際の処理の a) スロットケーブルの場合および b) LAPシースを参照。

(3) 心線及びTMの処理

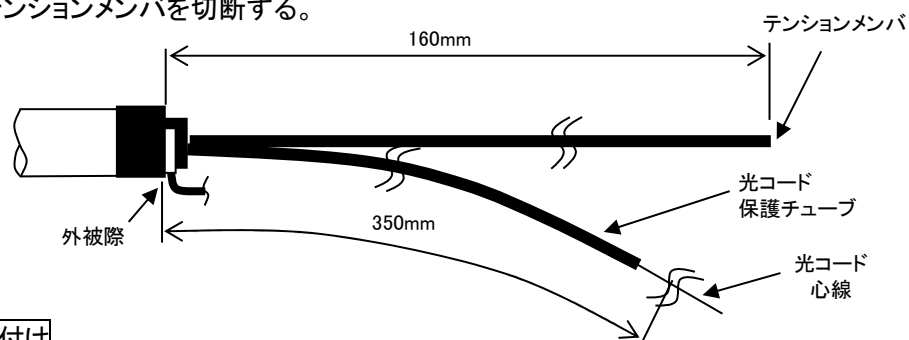
a) スロットケーブルの場合

- ① 心線識別チューブを長さ 350mm に切断したものをスロット毎に取りつけて、その上から1号保護テープ(オプション)を巻き、ばらけ防止する。
- ② スロットを切断し下図の通り口出しする。



b)コード型ケーブルの場合

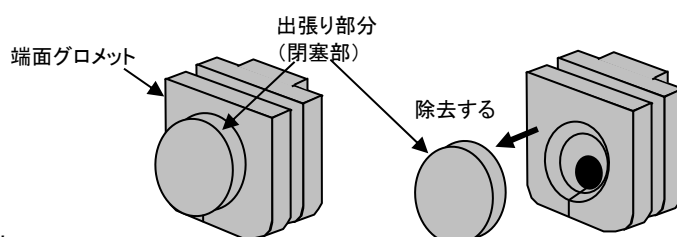
- ①コード以外の介在等はシース際で除去し、光コード補強チューブは350mm残して除去する。
- ②下図の通りテンションメンバを切断する。



3. 端面グロメット取付け

3.1 端面グロメット加工

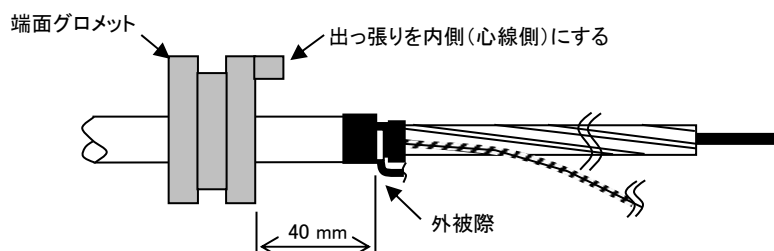
分岐ケーブルを導入する端面グロメットの出張り部分(閉塞部)をニッパ等で除去する。



3.2 ケーブルへの取り付け

端面グロメットを下図の通りケーブルへ取り付ける。

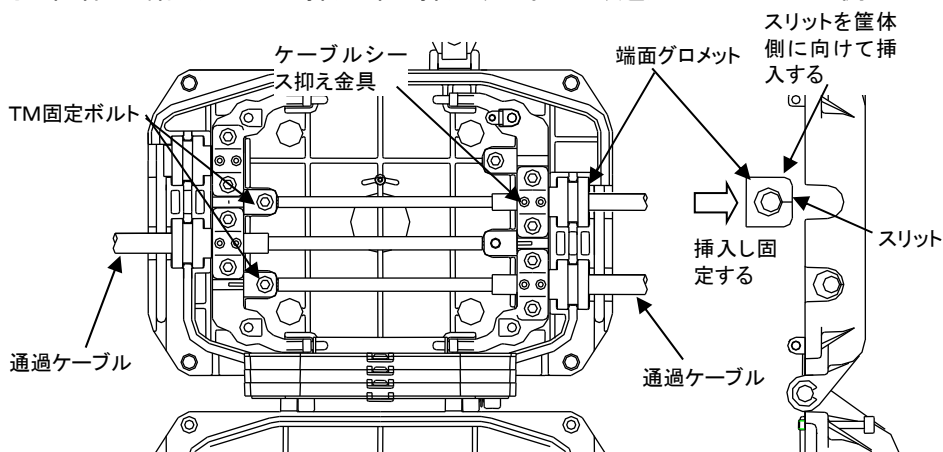
このとき、グロメットの内面と外面にシリコングリスを塗布する。



4. ケーブル固定

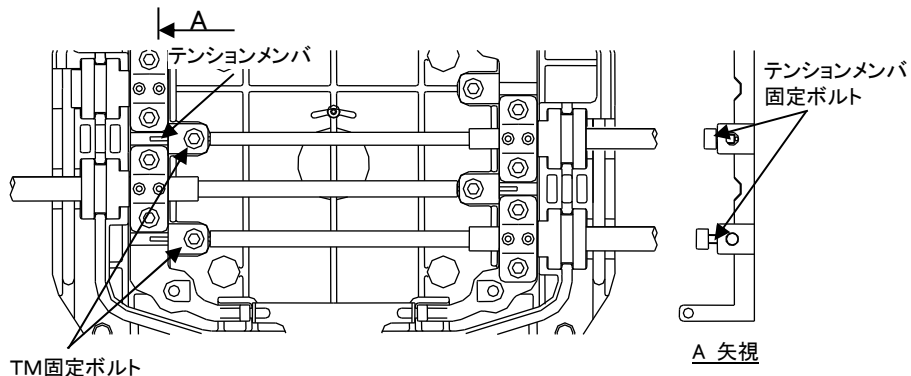
4.1 端面グロメットの固定

導入する位置のケーブルシース抑え金具を取り外し、TM固定ボルトを緩め、端面グロメットのスリット側を筐体挿入方向に向け筐体の端面グロメット挿入部へ挿入する。なお、通過ケーブルは下側のケーブル導入口を使用すること。



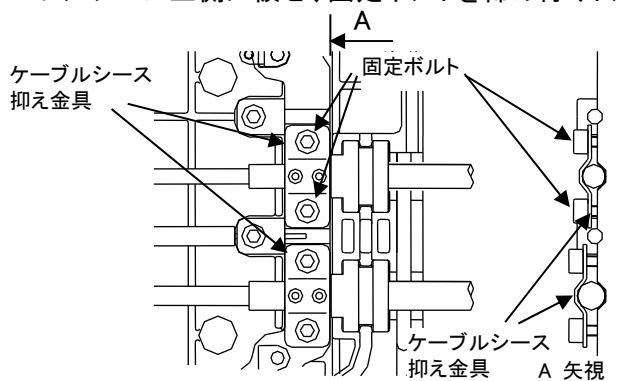
4.2 テンションメンバ固定

テンションメンバをTM固定部の穴に挿入し固定ボルトを締め付けトルク $4\text{N}\cdot\text{m}$ ($40\text{kgf}\cdot\text{cm}$)で締め付け固定する。



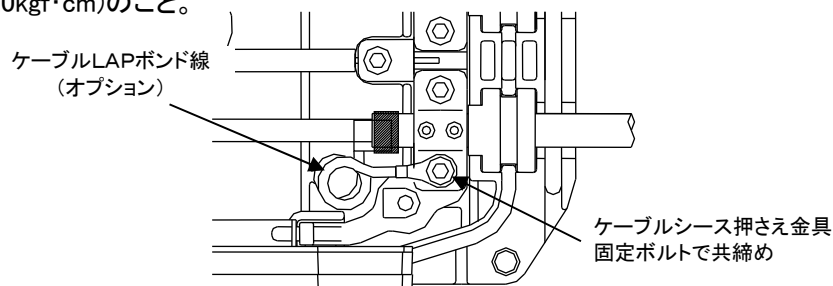
4.3 ケーブル外被固定

ケーブルシース抑え金具をケーブルシース上側に被せ、固定ボルトを締め付けトルク $2\text{N}\cdot\text{m}$ ($20\text{kgf}\cdot\text{cm}$)で締め付け固定する。



4.4 アース線の配線(LAP ケーブルの場合)

ケーブルLAPボンド線(オプション)はケーブルシース抑え金具と共締めする。締め付けトルクはケーブルシース抑え金具と同じ $2\text{N}\cdot\text{m}$ ($20\text{kgf}\cdot\text{cm}$)のこと。



5. 心線接続・余長収納

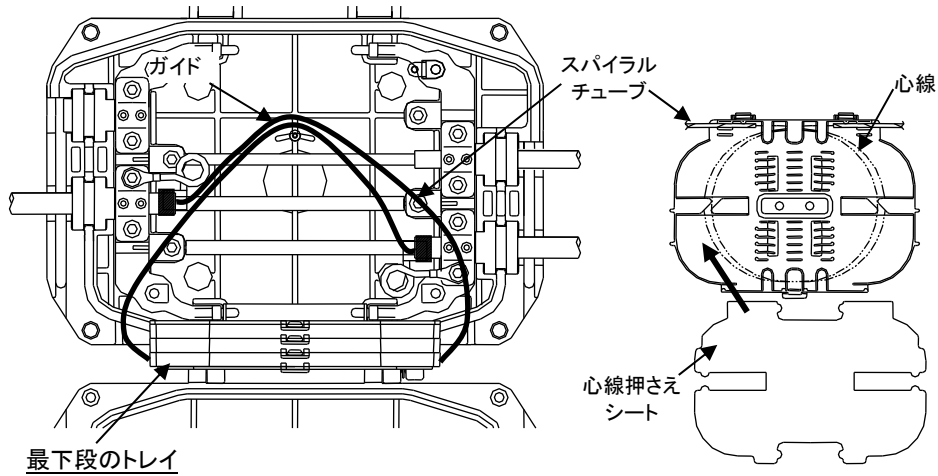
5.1 心線接続

心線接続機の取り扱い説明書に従い心線接続を行う。

5.2 余長収納

(1) 通過心線の収納

通過心線は筐体中央のガイドに引っ掛け、最下段のトレイに心線余長を心線の曲げ半径 30mm 以上でループ取りし収納する。最後に、心線押さえシートを取り付ける。

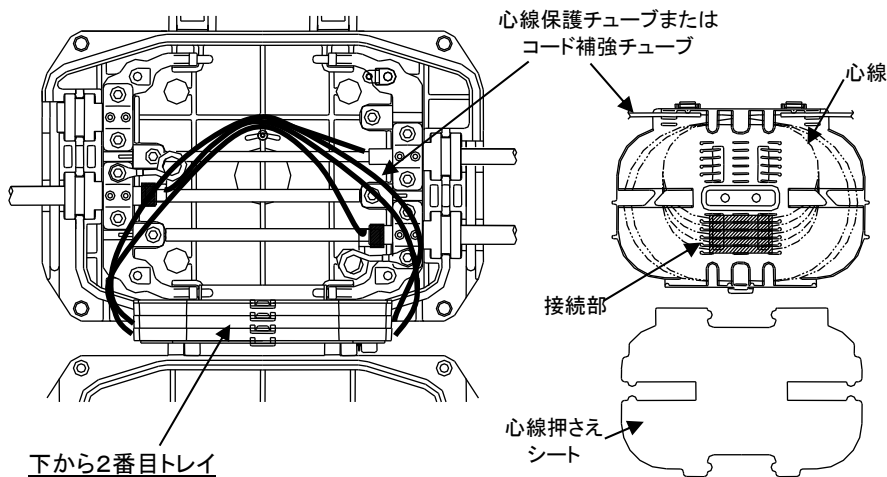


(2) 接続心線の収納

接続心線は筐体中央のガイドに引っ掛け、下から2番目以降のトレイに心線余長及び接続部を心線の曲げ半径 30mm 以上でループ取りし収納する。なお、接続部はトレイ中央部の接続部固定部にて固定する。

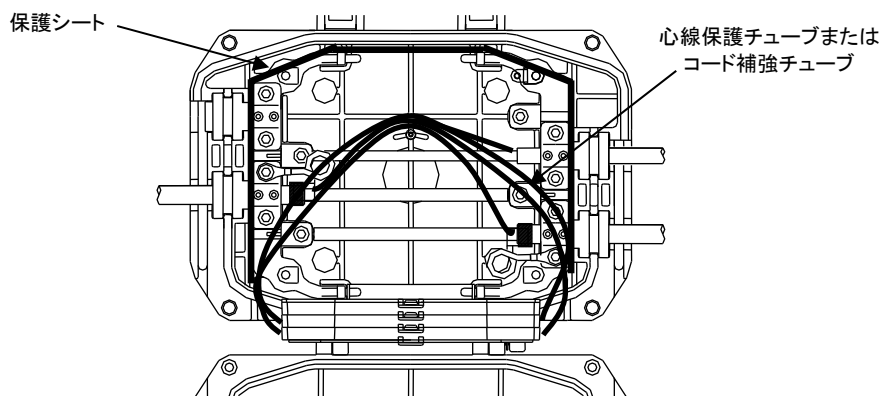
最後に、心線押さえシートを取り付ける

注意) 通過心線の収納が無い直線接続の場合は最下段のトレイから収納してください。



(3) 保護シートの取り付け

蓋を閉めたときの心線はさみ込みを防止する目的で、保護シートを取り付ける。

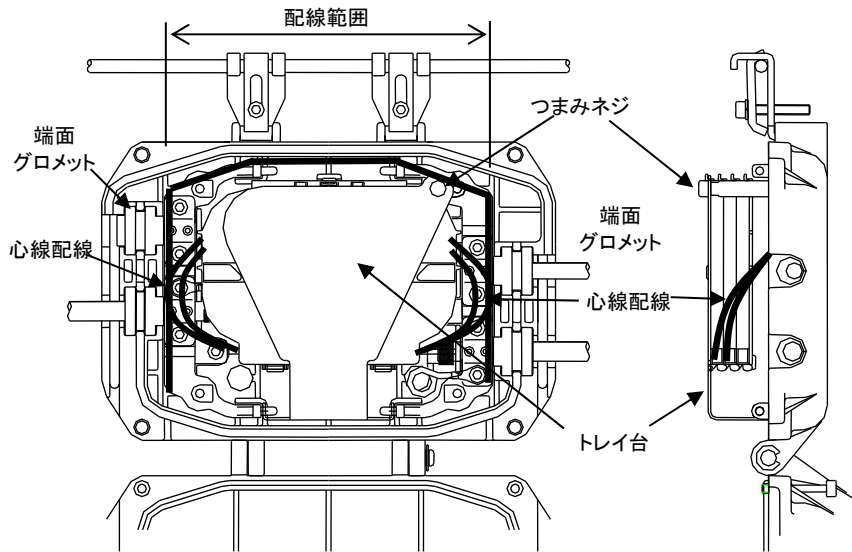


6. 蓋締結

6.1 トレイ台収納

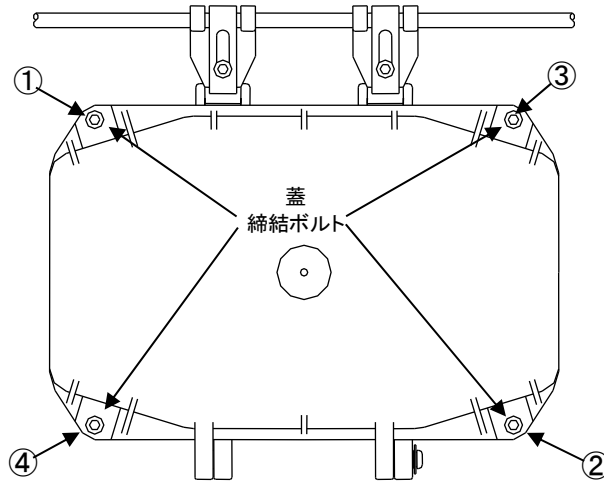
トレイ台を回転させつまみネジを締め付け固定する。

下図の通り心線の配線を調整し、端面グロメットの内側に収める(保護シート内側に納める)。



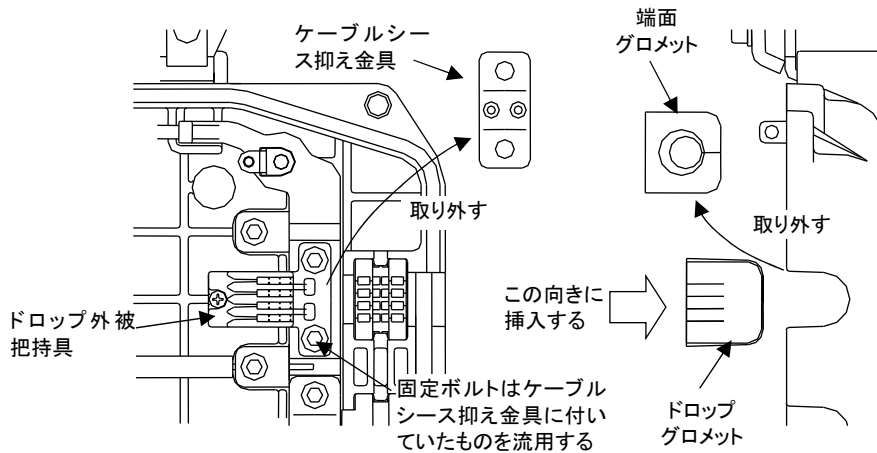
6.2 蓋締結

蓋の締結ボルト4カ所を下図の順番で均等に締め付けトルク2N・m(20kgf・cm)で締め付けて締結する。

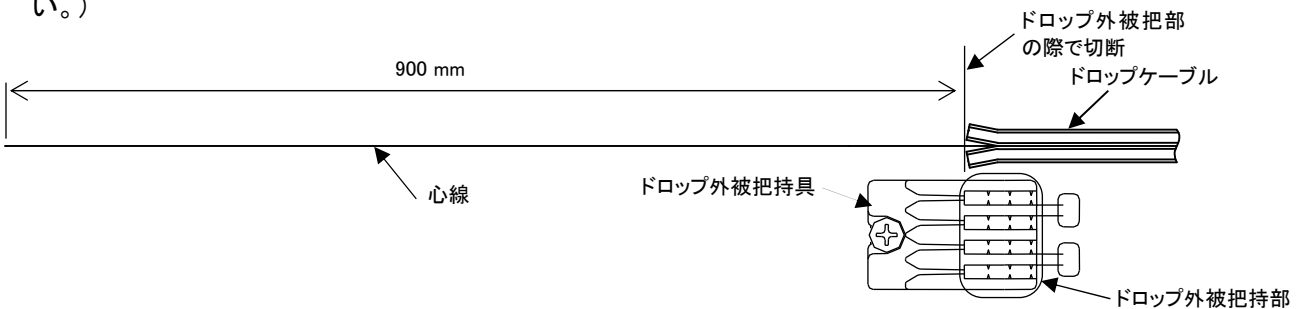


7. ドロップケーブル導入方法

- 1) 導入する位置のケーブルシース抑え金具を取り外し、固定ボルトは流用してドロップ外被把持具を替わりに取り付ける。ドロップグロメットを端面グロメットに替えて挿入する。



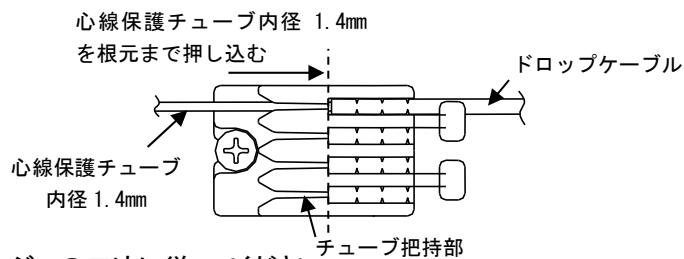
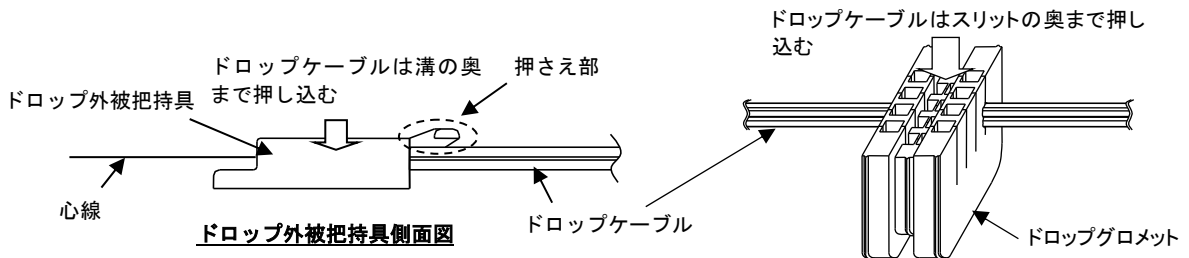
- 2) ドロップケーブルを引き裂き、ドロップ外被把持部の際で外被を切断する。
(支持線付ドロップケーブルの場合は支持線と本体を分離し本体のみをクロージャ内に引き込んでください。)



- 3) ドロップ外被把持具の溝にドロップケーブルを上から押し込み、ケーブルを固定する。ドロップケーブルは把持具の押さえ部の奥側に挿入する。

ドロップグロメットにドロップケーブルを挿入する。ファイバに心線保護チューブ内径 1.4mmを心線に被せて、把持具のチューブ把持部に差し込む。

*ドロップケーブルは金尺等で溝の奥まで押し込むこと。



- 4) 心線の接続と余長収納はクロージャの工法に従ってください。

以上